たちばな　　平成13年3月1日発行　第35号

たちばな

水谷山 寶清寺

春彼岸に寄せて　中道の教え

三月十七日から二十三日は春のお彼岸です。最近、人の心がすさみ信じがたい事件が多発しています。お釈迦様は「普通の生き方」の基本として、「中道」の教えを説いています。お釈迦様は伝記によると、二十九歳で出家、三十五歳で悟りを開かれるまで、死の直前までの断食等、あらゆる苦行を行いました。苦行は、当時のインドの修行僧の間では伝統的な実践法で、肉体を徹底的に酷使する事で、正しい道に目覚めると言うのです。又、出家されるまでは釈迦族の王子としての生活は、今日的に言えば享楽的だったようです。お釈迦様は、苦行と享楽の両極端を体験され、その中からは決して、「真の安らぎ」は得られないと悟られたのです。その結果、「右にも左にも偏らない心のバランスのとれた生き方」、つまり、仏教の基本姿勢でもある、「中道の教え」を説かれたのです。ご存知の通り、春分の日と秋分の日は昼と夜の長さが同じです。こうした自然現象が、お釈迦様の教えと重なって、お彼岸のお中日を「中道の日」とも呼びます。ストレスが過剰になりやすい今日だからこそ、我々は、意識的に息抜きの時間を持ち、上手に自分をコントロールできる方法を見つけたいものです。

国際ソロプチミストあきる野主催　もえぎの里「三宅島☆☆☆チャリティ☆☆☆茶会」

三宅島の子供達があきる野市にある秋川高校で家族と離れて生活を始めて、長い月日が経っています。何時、帰れるか分からない状況で不安な毎日を過ごしています。この度、住職家内が創立会長を務め、昨年創立五周年を迎え、その記念事業としてあきる野市と日の出町の両自治体に福祉活動のために車両を贈呈したり、又、国際的な視野でボランティア活動を行っている、国際ソロプチミストの主催により、三宅島の子供達を支援する一環としてて行うことになりました。

◎日時　平成十三年三月三十日（金）
午前十時～午後三時

◎場所　寶清寺客殿・たちばな会館

◎費用　四、五〇〇円
一席　薄茶席　本堂脇客殿　表千家
二席　煎茶席　会館二階和室　習軒流
三席　薄茶席　会館二階和室　石州流
四席　立礼席　会館第一ホール　裏千家
会館一階第二ホール

◎点心　以上の内容で実施致します。四〇〇名規模で行う企画です。当山で茶会を行うのは二回目ですが、この度は三宅島の子供達を支援する趣旨でもあり、住職家内が実行委員長を務めていることもありますので、お檀家及び橘墓苑使用の皆様には、是非、ご協力をお願い致します。ご参加に際しては、管理寺務所にお茶券が用意してありますので、お彼岸や墓参の折り、管理寺務所にお申し出下さい。

仏壇のお手入れとお参り

仏壇の掃除は心の掃除でもある　昔から、「一に勤行、二に掃除」と言われているように、仏壇を奇麗にしておく事は、大切な事とされています。仏様やご先祖が祭られているところを常に清潔にしておく事は、気持ちに余裕がないと中々出来ない事です。そう考えると仏壇の清掃は心の清掃に繋がるのではないでしょうか。

仏壇は自分のルーツでもある　仏壇に向かう時は、常に、ご本尊・ご先祖に感謝の気持ちを持ち、心を込めて合掌したいものです。仏壇にはご本尊が祭られていると同時に自分の先祖も祭られています。従って、現在自分がこの世にあるルーツが仏壇にあると言えます。仏壇へのお参りは、仏教修行の第一歩であり、精神修養でもあると言えます。

仏壇への供養を毎日の日課に　お盆・お彼岸・法事などは、きちんと供養しても、毎日の供養はなおざりになりがちです。二十一世紀こそ精神が大切です。仏壇に合掌・礼拝し、朝、一日の無事を祈り、夕方、一日の無事を感謝いたしましょう。

雑感

最近、家庭で、両親や祖父母が自分達の人生体験から学んだ事を子供達に話したり、先祖からの良い家風や先祖の供養について伝えたりする等、精神世界の伝承が著しく欠落しているのではないかと感じています。子供達が年長者の語る事を、うるさいと言って耳を貸さない現代の傾向によるのかもしれませんが、社会の乱れが顕著な今、家庭の団欒の中で意識的に話題にする必要があるのではないかと思います。是非、お彼岸を機会に、その事に触れていただき、家族全員が宝清寺を中心とした仏事についても共通した認識を持たれるよう希望致します。

くらしの中の仏教語　「有頂天」

得意満面になっていることを、一般に「有頂天になっている」と言います。その「有頂天」とはどんな意味でしょうか。仏教では三界という考えがあります。三界とは欲界（本能と欲望の世界）、色界（欲から離れた清らかな世界）、無色界（純粋な精神世界）のことです。「有頂天」とは、色界の一番上位にある、「九天の最頂上」にあるとされている世界です。つまり、かなり高い所にあるのが仏教で説く、「有頂天」です。一般的には、得意満面、鼻高々になった状態を呼びます。我々人間は欲界の生き物です。時折調子に乗りすぎることがあります。たとえ修行して九天の最頂上に登ったとしても、調子に乗りすぎると、欲界にころげ落ちる事になります。これを「九天直下」と言います。

最近の世相を見るに、努力して折角、色界の地位を手に入れながら、「有頂天」になり、「九天直下」欲界に落ちる人の例が数多く見られるのは残念な事です。

発行　寶清寺　東京都あきる野市小川101番地　電話 042-558-2663　FAX 042-558-2693　たちばな会館　電話042-550-5868